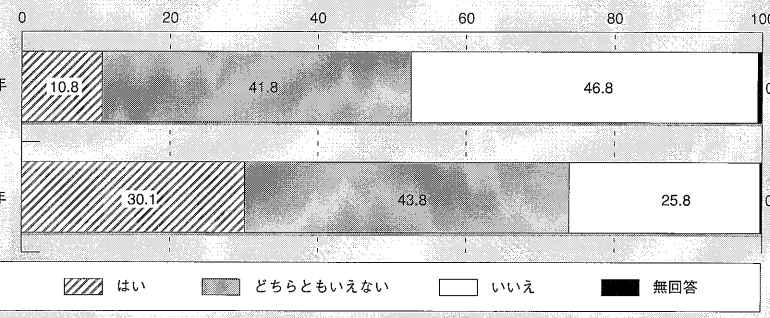
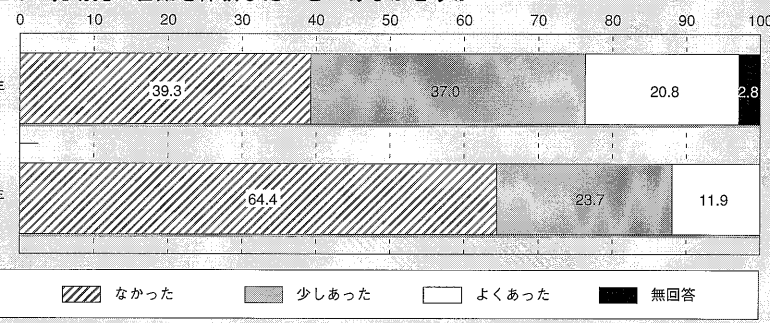
図表2-2-2　育児でイライラすることは多いか



資料：加藤曜子「児童相談所における児童虐待相談処理件数の増加要因に関する調査研究」（2001年）

図表2-2-3　乳幼児の世話を体験したことがあるかどうか



資料：加藤曜子「児童相談所における児童虐待相談処理件数の増加要因に関する調査研究」（2001年）

（育児不安を生み出す子育ての実態）

○　このような育児不安が高まってきている背景の一つとして、現在の母親達が自らの子ども時代を少産少子時代に過ごした世代であり、実際の子どもとの接触経験や育児経験が不足していることが考えられる（図表2-2-3）。

○　また仕事をやめたり趣味の活動の時間を減らす等、本人の希望に関わりなく出産によって女性の生活が変化しがちであることや、家族関係や子育てに係る支援の欠如といった心理的要因によるストレスも育児不安の一因になっていると考えられる。

○　夫婦の育児分担について、夫：妻が5：5を理想とするものが男性でも最も多いが、現実には2：8や3：7とするものが過半数を超えている。父親の子育てへの関わりが十分でない理由として夫婦があげるものは、「仕事が忙しすぎる」が最も多い。ただ、母親では父親の非協力・無理解を理由としてあげるものも3割に上っており、夫婦の間に認識の格差が見られる（図表2-2-5）。

○　図表2-2-6によると、より親密な近所づきあいがある母親はつきあいのない母親に比べて子育てを楽しいと感じているものが多く、辛いと感じるものは少なくなっている。地域の人間関係の希薄化で、従来近所づきあいが多かった「子どもを持つ女性」においてもつきあいが減少しており、これも育児不安の一因になっていると考えられる。

（増加する児童虐待）

○　全国の児童相談所において処理する児童虐待相談は、近年の育児不安の高まりや児童虐待への関心の高まりを背景に年々増加し、2001（平成13）年度は23,274件と前年度の1.3倍となっている。児童虐待は家族が抱える社会・経済的、心理・精神医学的なさまざまな要因が複合的に重なったときに起こりやすいと言われており、育児不安と同様に子育てをとりまくさまざまな要因に端を発することが多い。